

第3回自然観察会「林や市街地の野鳥を観察しよう」 報告

- 1 日時 令和6年6月15日(土) 8時15分～11時30分
- 2 場所 城址・城山周辺
- 3 講師 初瀬川孝夫(元酒匂中学校教頭) 垂水 宏昌(矢作小学校総括教諭)
西垣 亮(白山中学校教諭) 谷 圭司(元千代中学校教諭)
米山 有美(自然観察指導員) ー敬称略ー

4 参加者 内訳(教育研究所：中野・中島・高松)

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	保護者	教職員	講師	研究所	合計
申込者	3	1	0	1	0	0	2	0	6	3	16
欠席者	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
参加者	3	1	0	0	0	0	1	0	5	3	13

- 5 内容 小田原駅西口を起点に「白秋童謡の散歩道」をたどる。その後、城山公園の慰霊塔、三の丸外郭新堀土塁歴史公園、小田原城址公園へ移動し、野鳥や樹木、地形を観察することで林や市街地における「小田原の自然」を理解する。

- 6 日程
- | | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 8時15分 | 小田原駅西口 講師・職員による打ち合わせ |
| 8時30分～8時40分 | 参加者集合・受付 あいさつ・講師紹介・諸注意 |
| 8時40分～11時00分 | 白秋童謡の散歩道～総構～山ノ神堀切～城山公園の慰霊塔の西側～小峰御鐘ノ台大堀切東堀～
三の丸外郭新堀土塁歴史公園～小田原城石垣 |
| 11時00分～11時10分 | 小田原城石垣にて、感想カードの記入と回収
講師・職員による反省 |
| 11時10分～ | 参加者解散、小田原駅へ移動
今回参加者が三の丸小だけだった為、お迎え保護者と確認のうえ、石垣下、旧星崎記念館前で参加者解散となり、小田原駅まで戻った参加者はいなかった。 |
| 11時30分 | 小田原駅で講師・職員解散 |

7 成果・反省等

(1) 観察の状況

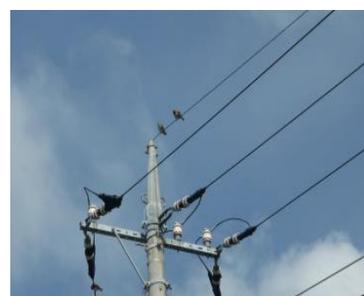
① 小田原駅西口から上谷津防災倉庫

城山幼稚園前、城山交差点にある電信柱の一番上にハシブトカラスが巣を作っている。坂を上って巣の高さと同じくらいの場所から、ひな鳥が確認できた。
小田原には、3本の尾根が走っていて、今現在歩いているところが、その中の1本である。市立病院、市役所小田原警察署等を上から眺めている。尾根の1本の先端に小田原城がある。



②白秋童謡の散歩道～上谷津防災倉庫を左に折れ、小田原城方面を見て

講師から、箱根火山に由来する火砕流で形成された尾根の先端に建っているのが小田原城であり、小田原城の北側に広がっている森が丸みを帯びているのは小田原の原生林の特徴であるという説明があった。今では1年を通して見られるイソヒヨドリやウグイスの鳴き声を確認できた。



③白秋童謡の散歩道～総構稲荷森に至るまで

先の電線にカワラヒワが止まっていた。持参した双眼鏡で確認していた。また、ムクドリとイワツバメの姿も確認できた。海岸に多く潮風に強い、小田原を代表する樹木であるタブノキを観察した。タブノキは線香の原材料になり、水分を多く含むため火事の際に延焼を防ぐのに役立つそうである。講師が持参したタブノキから得られた粉末のにおいを嗅いだ参加者から、「線香のにおいだ」という声があがっていた。



④白秋童謡の散歩道～総構稲荷森付近

クスノキの仲間であるため、葉脈の根元が3本に分かれており、裏側が白っぽいシロダモを観察した。シロダモの前には小田原城の総構が広がっており、参加者の目を引いていた。総構はもともとの地形を利用して作られていて、表面は関東ローム層に覆われているので滑りやすく、城を守るために適していた。また、現在は埋まってしまっている部分があるので、本当はもう数メートル深く、もっと急な斜面だったはずであるという説明が講師からあった。総構から散歩道に戻った所にヤブニッケイが生い茂っていた。葉脈が3本に分かれているというクスノキの特徴が見られた。ニッケイ（シナモン）ほどではないが、葉からニッキの香りが漂っていた。ヤブニッケイの周囲には、外来種で繁殖力が強いトキワツユクサが生い茂っていた。



⑤白秋童謡の散歩道～小峯御鐘ノ台大堀切東堀に至るまで

移動中、外来種で鳴き声大きいガビチョウや風切羽の黄色が特徴的なスズメと同じくらいの大きさのカワラヒワの鳴き声を確認できた。また、アジサイの花の話があった。

⑥城山公園～慰霊塔の西側

モリチャバネゴキブリや足が長くクモに似た姿をしているザトウムシ、ダンゴムシなどを観察できた。足下の葉を1枚ずつめくり、透明容器に入れていく活動を行った。講師が「足下の葉を1枚拾ってみてください。その葉はどのような木の仲間でしょう。」と投げかけたところ、参加者からすかさず「クスノキ」という声が返ってきた。クスノキの仲間は「葉脈の根元が3本に分かれている」という特徴を理解していると感じた。近くには小田原の代表的な樹木であるスダジイがあった。シイのドングリはアクが少ないため、茹でればアク抜きせずに美味しく食べられるそうである。



⑦小峯御鐘ノ台大堀切東堀

大堀切東堀で講師が「葉をめくっていき、何か気づいたことはないか。」と呼びかけたところ、「下に行けば行くほど葉がバラバラ」という声が返ってきた。「ルーペで葉を拡大して見ると、いろいろな生き物が見えると思います。それらの生物が葉をバラバラにして土にしようとしています。」という説明があった。葉をめくっているときにオサムシの幼虫やシデムシを観察することができた。また、メジロやシジュウカラなどの姿や鳴き声を確認することができた。石垣に水が流れるように生えているマメヅタというシダの仲間の葉を見た。



⑧三の丸外郭新堀土塁歴史公園

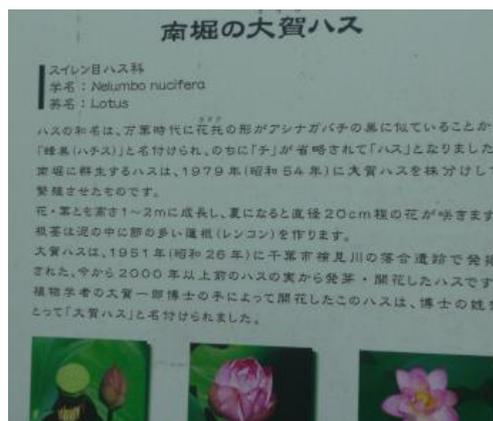
一夜城が建てられた石垣山や箱根火山を形成する山々など、小田原の西側の地形を概観した。現在、私たちが立っているところは箱根火山に由来する火砕流で形成された軟弱地盤のため、防災上の課題を抱えているという説明が講師からあった。歴史公園の出口付近にモミジの種子が落ちていた。モミジなど、カエデの仲間は「翼果（よくか）」と呼ばれる2枚の羽をもつ果

実の中に種子があり、独特な回転をしながら落下しする。風に乗って長い時間、滞空するための工夫だそうだ。落ちていた種子を拾い高い位置から落とし、種子の動きを観察した。



⑨ 藤棚前のお堀と崩れた小田原城の石垣

大賀ハスは、今から 2000 年以上前のハスの実から発芽・開花したものを株分けして繁殖させたものであり、植物学者大賀一郎博士の名前が付けられている。旧星崎記念館付近の地震で崩れた小田原城の石垣を前にし、講師から、小田原を中心とした地震が約 70 年周期で起きているため、各家庭で防災への備えをしていく必要があるという説明があった。その後、観察のまとめをして解散となった。



観察された鳥類

1	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ
2	キジ目	キジ科	コジュケイ
3	スズメ目	ツバメ科	ツバメ
4		ヒヨドリ科	ヒヨドリ
5		ヒタキ科ツグミ亜科	イソヒヨドリ
6		ヒタキ科ウグイス亜科	ウグイス
7		ヒタキ科ヒタキ亜科	キビタキ
8		シジュウカラ科	シジュウカラ
9			ヤマガラ
10		メジロ科	メジロ
11		ホオジロ科	ホオジロ
12		アトリ科	カワラヒワ
13		ハタオリドリ科	スズメ
14		ムクドリ科	ムクドリ
15		カラス科	ハシボソガラス
16			ハシブトガラス
17		チメドリ科	ガビチョウ

以上 15科 17種類
(元酒匂中学校教頭 初瀬川孝夫先生による)

昆虫

カミキリムシ
アゲハチョウ
モンシロチョウ
カメムシ
ザトウムシ
チャバネゴキブリ
ダンゴムシ

植物

タブノキ
ムラサキカタバミ
テイカカズラ
トキワツユクサ
シロダモ
ヤブニッケイ
マメヅタ
スタジイ

8 参加者の感想

【児童・生徒 小4～小5】

- ・チャバネゴキブリがみられてよかった。いろいろな植物がみられた。
- ・いろいろなものとかを教えてもらってすごく楽しかったです。後、歴史を教えてくれてありがとうございます。
- ・いろいろな植物や虫の名前が知れてとてもうれしかったし、とても楽しかった。鳥もいろいろな種類を知れてとてもよかった。
- ・いろいろな鳥の名前、特徴、鳴き声などを知れて少し取りに詳しくなれた気がしました。地形のお話はあまりわからなかったけど、歴史などを知れたので、いい経験になったと思っています。鳥、黄、植物といろいろな生き物を見たりできて、自分的に本当にいい経験だったので、ありがとうございました。

【保護者】

- ・小田原に住んでいますが、全く知らないルートを通ることができ、子供たちも興味津々で話を聞いたり、景色を見ていたので楽しかったです。